

平成31年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園
長崎医療こども専門学校

日本語科

1. はじめに

本校は、自己評価を組織的・体系的に実施し、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度より、教職員による自己評価に加え、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認を行っています。

それらの評価の結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、教育目標を達成すべく取り組んで参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

(2) 各学科・部署ごとの重点目標

自己評価

教職員による自己評価

3. 評価結果につて

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について目標を数値化し、その達成状況を確認しました。

①学生全員の進学の実現に努める。

卒業生全員を進学させることを目標に掲げましたが、帰国希望者や在留資格を変更した学生がいたので、全員の進学は達成できませんでしたが、学生が希望する進路への指導はできています。

②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

本年度は日本語能力試験4級以上の合格を目標に掲げて卒業年次の12月の試験まで指導に取り組んできました。

目標として掲げた各学年の合格率は次の通りです。

1年生 40%

2年生 70%

それに対して実績は次の通りです。

1年生 83%

2年生 92%

これまで、N4を受験せずにN3を受験する学生が多かったためN4の合

格率が低かったのですが、基礎となるレベルをしっかりと学ばせ、教育の質の向上に取り組んで参ります。

③学生の中途退学者の低減に努める。

本年度の中途退学者は11名でした。理由は、家庭の事情や病気療養のための自主退学。学費が支払えないために学業の継続ができないことによる退学処分や所在不明による退学処分者もいましたので、在籍管理を徹底し、中途退学者を低減させるよう努力してまいります。

(2) 自己評価

教職員による自己評価

専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

- ・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか：2.73ポイント

※具体的な評価項目と教職員による評価点は、別紙「2019年度自己評価(日本語科)」参照。

4. 教職員からの意見・要望等への改善について

教職員からの意見・要望等が多くありましたので、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図っていきます。

5. 次年度の自己評価について

次年度の自己評価は、PDCAサイクルに基づき、組織的・計画的に行います。

(1) 教職員による自己評価

(2) 各教職員及び各学科・部署ごとの重点目標の設定と評価

6. さいごに

本年度の自己評価は、教職員による自己評価に加え、学科の重点目標を年度初めに設定し、その達成状況を年度末に確認するという手法を取り入れました。

本年度の自己評価の結果を学校関係者評価委員会にて審議していただき、学校外部の皆さま方からのご意見をより多く取り入れる事により、学校の資の向上、教育力の向上に取り組んで参りたいと考えている次第です。

以上